

2022年度後期 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

法人名		園名	
社会福祉法人照治福祉会		摂津峡認定こども園	
まとめ		全体平均	4.10
第2章第2節 乳児期の園児の保育	育児担当制保育をしていく中で子どもとの信頼関係を築き、安心して過ごせる環境を作っている。一人ひとりの発育、発達状況や健康状態について、担任、看護師、栄養士としっかり連携を取り相談しながら保育を進めている。保護者からの相談にも丁寧に応え、個々に合わせて柔軟に対応している。		
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子どもの育ちを家庭と共有し、園と家庭と子どもを真ん中に同じ思いで子育てができるよう連携を図ってきた。また、子どもの成長に気づき一緒に喜びを感じられる援助した。また、障害や発達上課題が見られる場合は、個別支援をしたり市や関係機関につなげ連携を図った。		
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子どもの育ちを家庭と共有し、園と家庭と子どもを真ん中に同じ思いで子育てができるよう連携を図ってきた。また、子どもの成長に気づき一緒に喜びを感じられる援助した。また、障害や発達上課題が見られる場合は、個別支援をしたり市や関係機関につなげ連携を図った。		
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	安全安心を第一に子ども一人ひとりと関わりながら、信頼関係を築くことができた。子どもが興味のある遊びや活動ができるように環境を整え健康な生活ができるよう配慮している。日課を大切にしながら、子ども自身が見通しをもって活動に入れるよう事前に話をしたり、ボードに絵を描いたりしてわかりやすく伝えている。子どもが困ることなく見通しをもって活動できるよう配慮している。自分を守るという意識が持てるよう遊び方や、危険なことなど子どもと一緒に考える時間を作り、してよいこと、悪いことの意識が持てるよう丁寧に話をして考える機会を		
第3章 健康及び安全	給食室や看護師と連携しながら子どもが生活する環境に配慮してきた。例えば食育活動について、年間計画を基に実施するほかに、子どもの意見からそれ以外のクッキングを実施することから、素材の調達や給食室の先生に聞き取りをしたりして手間と時間をかけて取り組んだ。その結果「こどものひ」の取り組みに繋がり、そこから生産、販売、食するという仕組みを知り、食することへの興味関心が深まった。		
第4章 子育ての支援	利用者の保護者に対する子育ての支援は、日ごろの対話から職員が丁寧に話しかけ取り組むことが出来ている。地域の子育て家庭への支援については、コロナ感染防止が壁となり、園庭開放やわくキラ広場利用の伸び率が上がらなかった。令和5年度は色々な視点から子育て支援に取り組みたい。		
第5章 職員の資質向上	教育保育の質を上げるためには保育者の知識技能を高めることにありと感じる一方で子ども一人ひとりと向き合い理解できる保育者としての質を高めることも大切と考える。今年度は「おとな哲学教室」の園内研修を行い、計5回にわたり対話を中心とした形式で取り組んだ。自分と向き合う中で出来ていないことばかりに目が向きがちであるけれども、出来ていることに視点を当てもっと膨らませて取り組むことで志気が高まるのではないかとという視点で考え方をシフトしていくことが大切とわかった。		
総合	日常の教育保育実践の中で園の理念方針を理解していることは十分にわかった。しかし時折そうでないと感じ振り返る姿がある。往々にしてその時は忙しかったり、時間に追われていたりしていることが要因のようにも思える。その行為ばかりを責めるのではなく何故そうなったのか、人が足りないのか、保育士の連携ができていないのか、環境が十分でないのか等々色々な側面から問いをする、職員自身のできていないことを指導するより今までとは違った方向から考えてみるのも職員一人ひとりの志気高める一因になれるのではないかとと思うので取り組んでみたい。		

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.32
「3歳未満児保育」	32	4.04
「3歳以上児保育」	53	4.13
「教育保育の配慮事項」	16	4.25
「健康・安全」	29	4.05
「子育ての支援」	18	3.93
「職員の資質向上」	9	4.00
計	172	4.10

データグラフ

